

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 11 月 27 日現在

機関番号：31502

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520405

研究課題名(和文)近代における日本古典文学の中国語訳に関する比較文学的研究

研究課題名(英文)A Comparative Literature Study on Modern Chinese Translations of Japanese Classical Literature

研究代表者

呉 衛峰 (WU, WEIFENG)

東北公益文科大学・公益学部・教授

研究者番号：90458159

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究において日本古典文学の中国語訳について、共同研究者がそれぞれ優れた業績をあげた。

研究代表者の呉衛峰は、豊子愷訳『源氏物語』に関して、基礎的資料を駆使してその成立・出版・受容等の状況を明らかにした。さらに、銭稻孫に関しては諸文献を生かしてその人物像に関する開拓的研究を行った上、『源氏物語』の部分訳や万葉歌の翻訳を中心に銭訳の特徴を分析し、一連の先駆的な論文をまとめた。研究分担者西楨偉は中国詩の日本語訳を實踐し、本研究のテーマを反対の側面から捉えようと試みた。研究分担者の李哲権は古典文学の翻訳について理論的研究を進めており、その成果を近いうちに発表する予定である。

研究成果の概要(英文)：Regarding the Chinese translations of Japanese classical literature, each member of the group has reached some excellent achievements.

Wu, the representative of the research team, for instance, revealed the facts concerning the accomplishment, publication and acceptance of Feng Zikai's version of The Tale of Genji, based on primary sources. Wu also published a series of research papers on the human figure of Qian Daosun, the pioneering translator of Japanese classical literature into Chinese, and on the characteristics of Qian's translations. Nishimaki, another member of the team, published his translations of Chinese poetry into Japanese in succession, which elucidated the theme of this study from the opposite side. Li Zhequan approached the theme from the theoretical angle of translation studies, and will publish his research paper in the near future.

研究分野：比較文学

キーワード：翻訳研究 日本古典文学 中国語訳 銭稻孫 豊子愷 源氏物語 和歌

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究開始当初は、和歌の中国語翻訳に関心を持っており、数本の研究ノートを書いて、新しい翻訳の試みを主張していたので、今までの和歌中国語訳の諸問題を整理する計画を立てた。一部の学者と翻訳者は一般読者不在の「日中友好文化交流サロン」式の漢詩文訳をおこなっており、そうした局面を打破する理論上の要請があったのである。

(2) さらに、西楨が研究代表者をつとめた豊子愷の研究(科研費C)に研究分担者として参加したことで、豊訳『源氏物語』の研究を始め、それをさらに続け、拡大していく計画であった。

(3) また、著名な文学者である周作人と同時代の銭稲孫という優れた翻訳者が政治上の理由で長い間埋没されており、銭の人物像を明らかにし、日本古典文学の中国訳における銭の先駆的業績を本格的に研究する必要もあった。

2. 研究の目的

(1) 和歌の特質が包摂されてしまう文言(文語体)もしくは漢詩文訳を翻訳の前提とみる既存概念から抜け出すべく、和歌の中国語訳の諸問題を整理することを通じて、白話(口語体)による和歌訳の可能性を立証する。

(2) 銭稲孫は中国においては、『源氏物語』および『万葉集』などの日本古典文学を初めて本格的に翻訳したにも係わらず、その人物像や翻訳作品を含む作品の大半は闇に埋もれていた。銭稲孫という不世出の翻訳家の人物像を明らかにし、その翻訳業績を正當に評価する。

(3) 銭訳による『源氏物語』の部分訳と比較しながら、豊子愷訳『源氏物語』を様々な面から検討する。読み易さを最優先に考慮する豊子愷の平明かつ流麗な文体を銭稲孫と周作人の翻訳とはことなる位相で議論する。

(4) 銭稲孫の著作リストを作るのも研究目的の一つである。現在二種類はあるが、いずれも不完全なものである。

3. 研究の方法

(1) 和歌翻訳の文体という一般的問題については、各翻訳を比較しながら、文言と白話、さらに分ければ明清白話と現代白話などの文体選択を同化・異化という翻訳戦略の視点から捉える。

(2) 銭稲孫の研究に関して、人物像については、在日時代の資料および帰国後の資料を成城大学図書館・筑波大学附属中学校や北京・清華大学の各資料館等で調べた。1930年代以降の銭稲孫の様々な翻訳作品を北

京国家図書館などで調べて、作品リストを仕上げながら、上記のしっかりとした文献調査を元にその翻訳手法を分析する。

(3) 豊子愷訳『源氏物語』に関しては、浙江省桐郷市にある豊子愷記念館所蔵の原稿写真を緻密に調査して、翻訳の成立プロセスを分析する。さらに、その出版をめぐる様々な事情について、当時の編集者たちの回想録などを調査し、事実を一つ一つ確認していく方法を取った。

4. 研究成果

(1) 和歌翻訳の文体に関しては、銭稲孫の白話訳の試みや、研究代表者の実践等で、白話文のシンタックス上の柔軟性を分析した。2013年の国際比較文学会パリ大会における発表では、数種の和歌とその定型詩訳を検討し、句跨りなどの手法を大胆に取り入れた呉による白話翻訳がより和歌本来の美的情緒および詩的リズム感を伝えていることを立証した。呉による和歌翻訳の研究と主張は中国の翻訳界で大きな反響を呼び、研究書籍や論文に引用され検討されている。

(2) 銭稲孫については、人物像および翻訳手法に関する先駆的研究を行い、今後の銭稲孫研究の出発点となるであろう。人物像については、日本留学時代を記録した原始資料や少年時代に同人誌に発表した漢詩等の発見が大きな成果である。翻訳手法については、二点の大きな成果がある。つまり、『万葉集』と『源氏物語』の翻訳では、銭稲孫は二つの手法が顕著に認められる。韻文の『万葉集』の翻訳においては、翻訳不可能という大前提で、擬古的な「模倣的対応」の方法で翻訳したのであるが、それにしても、明清白話風の翻訳を終生試みたのである。一方、『源氏物語』の部分訳においては、内容・構文の両面から見れば、「模倣的対応」という基本的方法の上に、逐語的で、読者にとっての分かり易さ、もしくは中国語らしさより、原文の言語的特徴の忠実な反映を優先する異化翻訳とも言えるところが多々あることである。結果的に、原文の情緒とともに、曖昧さ・難解さもそのまま訳に残されることとなった。

(3) 豊子愷訳『源氏物語』手稿等の緻密な分析で、成立過程・出版状況・読者受容という面でしっかりとした文献研究を行った。中国においては、『源氏物語』の様々な新訳が出ているにも係わらず、豊子愷訳の影響下から抜け出て独自の翻訳スタイルを確立できたものはいまだに見つからないことは豊子愷訳の成功を物語っている。ただし、豊訳と比較すると一層目立つことだが、豊訳に先立って銭訳源氏を読んでいるとき、読者は否応無しに銭訳の擬古的明清白話と逐語的表現・構文の混淆文体に引き付けられる。現代白話文のスムーズで透明な文体を通して安

易に原書の「意味」に到達することはできず、ごつごつとした訳文に隠されている訳者の姿・訳者の文学的創造を認めざるを得ないのである。

(4) 上記の手法で、現代中国詩の日本語訳についての研究を発表し、本研究の方向を逆照射した。是永駿による中国現代詩の日本語翻訳に対する研究は、一見本研究とかけ離れているように見受けられる。しかし、日本語・中国語という二つの言語の境界線を越えるとき、是永の創造的翻訳は銭稻孫の文体的工夫の鏡像にすら見られることができ、両者を合わせて検討を続けると、詩の翻訳とは何か、文学の翻訳とは何かという問題の核心に近づくであろう。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計6件)

(1) 呉衛峰、「中国現代詩の翻訳と世界文学——是永駿の仕事を中心に(その一・北島の詩)——」、『東北公益文科大学総合研究論集』、査読無、第26号、2014、(1) - (10)頁。

(2) 呉衛峰、「銭稻孫による日本小説の中国語訳——志賀直哉の『轉生』を中心に」、『東北公益文科大学総合研究論集』、査読無、第25号、2014、(1) - (5)頁。

(3) 呉衛峰、「梵門と隠逸——『新撰万葉集』の歌と詩——」、『比較文学』、査読有、第56巻、2014、1 - 19頁。

(4) 西槇偉、「新鮮なかわき——中国現代詩選(その二)陳盈盈『盈盈集』」、『文学部論叢』熊本大学文学部、査読無、第105号、2014、189 - 225頁。

(5) 呉衛峰、「銭稻孫と日本古典文学の中国語訳——『源氏物語』「桐壺」巻の訳を中心に——」、『比較文学』、査読有、第55巻、2013、36 - 47頁。

(6) 西槇偉、「風に舞う旗——中国現代詩選(その一)馮至「北遊」「十四行詩」」、『文学部論叢』熊本大学文学部、査読無、第104号、2013、139 - 161頁。

[学会発表] (計6件)

(1) 呉衛峰、「現代中国詩の日本語訳について——是永駿の仕事を中心に」、日本文学研究会十四周年年會暨国際学术研讨会(中国・広州)、2014。

(2) 呉衛峰、「中国現代詩の翻訳と世界文学——是永駿の仕事を中心に——」、日本比較文学会東北支部第12回比較文学研究会(仙台)、2014。

(3) 呉衛峰、*Elitism in the Chinese Translations of Waka*, ICLA (International Comparative Literature Association) XXth Congress, 2013 Paris-Sorbonne.

(4) 呉衛峰、「銭稻孫と『源氏物語』の翻訳——その成立と特徴を中心に——」、東アジア文学及び文化交流国際シンポジウム(中国・天津)、2012。

(5) 呉衛峰、「銭稻孫と『源氏物語』の中国語訳」、日本比較文学会東北支部第10回比較文学研究会(仙台)、2012。

[図書] (計1件)

(1) 呉衛峰、他、上海古籍出版社、『国際中国文学研究叢刊』第2集、2013、165 - 174頁。

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

[その他]
ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者

吳 衛峰 (WU WEIFENG)
東北公益文科大学・公益学部・教授
研究者番号：90458159

(2)研究分担者

西槇 偉 (NISHIMAKI ISAMU)
熊本大学・文学部・教授
研究者番号：50305512

李 哲権 (LI ZHEQUAN)
聖徳大学・人文学部・准教授
研究者番号：70306455